

「避難訓練」

～避難所 HUG (ハグ) 運営ゲーム～

校長 森 勝義

日本でのニュースで「阪神優勝」、「日本シリーズ」の話題で数多くの報道がなされていましたが、残念だったのは阪神タイガース優勝が決まった直後に、厳戒態勢をかいくぐって道頓堀川にダイブした人が何人もいたことです。前回死人も出た道頓堀川ダイブなのに、周りが煽っているみたいで非常に残念です。

さて日本語学校では先週、火災を想定した避難訓練を実施しました。避難指示放送から幼稚部から高等部の安全確認報告を受けた所要時間は4分57秒でした。「お」「は」「し」「も」「ち」をひとり一人が守り、迅速に行動していました。立派でした。3学期は「トルネード避難訓練」を実施します。1学期は「不審者対応訓練」でした。子どもたちにとって不審者とはどんな人でしょうか。「不審者や知らない人に気をつけて」という言葉をよく使いますが、確かに便利な言葉ではありますが、この言葉を使うことで、一番大事な「何に気をつけるのか」が曖昧になってしまっは意味がありません。抽象的な表現では子どもたちには伝わりません。ご家庭でも常に危機管理に気を配る話をしながら生活していきたいものです。

日本の小・中学校での防犯教育は、地域と協働して避難訓練を実施しています。私の中学校でも実施していました。地域のために災害支援活動（救助や炊き出し補助、簡易トイレ設置補助等）をしようとしたとき「どこに何があるかわからない」のでは活動ができません。どこにどんな人が住んでいるかを知らなくては、救助にも行けません。地域住民の方々に直接教えてもらったり、共に訓練をすることで、いざという時に、実際の救援活動に貢献できると思います。体育館や教室が避難場所となった場合、避難者一人に与えられるスペースを模造紙で作成し、子どもたちに提示すると、あまりにも小さなスペースに驚きます。昨年、私の中学校でも2回、緊急避難所になりました。いずれも台風で避難勧告がでて、体育館が半分以上、避難された方々でうまりました。

以前、中学生に避難所の出来事や避難者対応をゲーム感覚で疑似体験する、「避難所運営ゲーム、HUG」をやりました。ご存じの方もいらっしゃると思いますが、読み上げ係が、避難者カードを次々読み上げ、各グループに渡していき、避難者を考慮して、体育館や教室の適当と思われる場所に配置したり、イベントカードで付与される様々な出来事に即座に対応しなければならないゲームです。ほぼすべてのグループが後半、パニックになってしまい、適切な指示ができなくなります。ぜひ、ネットで検索し、ご家族で疑似体験してみてください。

井田 大葵

ぼくは、和紙という特別な紙があるのを知りませんでした。日本にいたとき、ぼくの家にしょうじがはってありました。そのしょうじに使われていた紙は和紙でした。ぼくは、自分の家のしょうじにはってあった紙が和紙だったなんて知りませんでした。和紙をやぶってみると、毛玉をちぎったようなあとが残っていました。ふつうの紙よりかたくてきれいでした。ぼくは、和紙の手紙が送られてきたら、とっておこうと思います。和紙は千三百年もとっておけるからです。

林 由惟

わたしが「世界にほこる和紙」を読んで知ったことは、和紙はせんいというとても細い糸のようなものでできていて、その糸をからませて作っているということです。ひらべったい紙が、細い糸のようなものをさらにかからませて作ってあることにおどろきました。以前、家で和紙を使ったときに思ったことは、和紙はすけているから絵もうつせるということでした。和紙は洋紙にくらべて高いけれど、それくらいかちがあるものだと思います。

花野 剛琉

ぼくは、この本を読んで感じたことは、筆者の考えがはっきり書かれているということです。筆者は、「より多くの人に和紙のよさを知ってもらい、使ってほしい」と言っています。次に、初めて知ったことは、和紙はただの紙だと思ったら、ふつうの洋紙とちがって2つのとくちょうをもっていることです。その2つのとくちょうは、やぶれにくいこととせんいが長いということです。和紙はすけて見えるのに、なぜやぶれにくいのかと不思議に思いました。

秋葉 陽

ぼくは、「世界にほこる和紙」を読んで、和紙のことを初めて知りました。一つ目は、和紙はやぶれにくいことです。二つ目は、長もちすることです。三つ目は、洋紙は多くの薬品を使いますが、和紙は薬品をあまり使わないことです。四つ目は、和紙はいろいろな使いかたがあることです。たとえば、お年玉のふくろやちがった形のふくろです。五つ目は、和紙はいろいろな色や風合いがあることです。ぼくは、一度和紙を使ってみたいと思いました。



ヒゲ森の言葉の森・探検



めいそう じょうき

明窓浄机

整理整頓され、落ち着いて勉強や読書ができる環境。「浄机」は、清潔な机の意で、「浄几」とも書く。

人生の価値は時間の長さではなく、
その使い方で決まる。

ミシエル・ド・モンテーニュ

1533年～1592年。フランスの思想家

同じ時間で、より多くのことや質の高いことができな
いかを考え、実行したい。